

## 第2回越前町学校教育環境検討委員会 会議録

日 時 令和2年1月29日(水)

午後7時00分～8時34分

場 所 越前町生涯学習センター

2階 第1・2会議室

### 1. 開 会

### 2. 委員長あいさつ

### 3. 報告事項

#### (1) 越前町学校教育環境調査の学校区別アンケート集計等について

委員長

最初に私から、簡単に整理をさせていただきます。

5点あります。1点目はアンケートの回収率に関して、保護者からの回収率が少ないのはなぜかということ。2点目はアンケート結果について、全町の総計になっているが、地域別、学校区別に集計すると課題が浮き彫りになるのではということ、地域別の内訳を示してほしいというご提案。3点目は、問21の回答数が合計しても100%にならないというご指摘。4点目は、アンケートの自由意見はどこかで見ることできるのかというご質問。5点目は、アンケートの内容はどういった考えに基づいて作成したのか、参考とした例などはあったのか、というご質問です。

以上について、これより事務局の方からご説明いただきます。

(事務局説明)

委員長

何か質問、ご意見等がありますでしょうか。

無いようですので、次の協議事項に入らせていただきます。

### 4. 協議事項

#### (1) 越前町および町内小中学校の現状について

委員長

内容に関連する観点から、最初に1～3番までを一括して説明後、質疑応答し、その後4～5番までの説明をいただくとし、分けて進めてまいりますので、よろしく申し上げます。

(事務局説明)

委員長 | ご質問、ご意見等ございましたら伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。  
無いようですので、4～5番の説明を事務局お願いします。

(事務局説明)

委員長 | ご質問、意見等ございましたらお願いいたします。

委員 | 越前町に今どれだけの借金があるのかなど、過去5年間から今後の見通しについての数字をお示しいただけたらと思います。  
今後の教育費の費用について資料を出してもらおうと、判断材料になるのではないのでしょうか。

委員長 | ご指摘について事務局いかがでしょうか。

事務局 | 次回、過去5年程度で少し詳しい資料をお示ししたいと思います。

委員 | すぐ分かると思いますが。ざっくりでいいので。

委員長 | お分かりの範囲内で説明いただけるようであればお願いします。

事務局 | 手元に決算書はあるのですが、このままご説明するよりも、もう少し具体的な資料を用意して、次回ご説明させていただきたいと思います。

委員長 | それではどうしますか。資料として送付いただけるのか、次回のお示しですと先になってしまうと思いますが。

事務局 | 次回の報告事項ということでご提示させていただきます。

委員長 | では次回よろしくお願いします。他にご質問、ご意見等ございますか。

委員長 | 施設の耐用年数についてと、織田小学校の構造(W造)は他とどう違うのかお伺いします。

事務局 | W造というのは「木造」です。「RC造 鉄筋コンクリート造」の耐用年数は60年程度かと思います。

委員長	わかりました。他にご質問はございますか。
事務局	先ほどお答えしました鉄筋コンクリート造の耐用年数について補足いたします。税法上は、鉄筋コンクリート造の耐用年数は47年、木造は22年となっております。
委員長	わかりました。 本日4名学校の管理職の方々が出席されておりますので、ご意見いただけないでしょうか。
委員	現在、町採用の講師、支援員の方々、非常にたくさんの支援をいただいております。特別支援が必要な子どもたちが多いので、大変ありがたいと思います。このような話を他の市町の先生にすると、本当に恵まれているというお話をいただくので、私もこの越前町で務めさせていただけて非常にありがたく思っております。
委員	地区別アンケート結果を見て思ったのですが、保護者が学校に期待するものと、地域の方が期待するものについて、それほど数字に差はないのですが、やはり保護者は子どもの教育を一番に考えているのだと感じました。地域の人からすると、防災拠点あるいは社会体育としての機能も期待があるのだと改めて感じたところです。
委員長	四ヶ浦小学校の今の児童数について、現状をどう思われますか。
委員	四ヶ浦小学校は、全校児童が92名で1学級が15、6名程度です。クラス替えはありません。もちろん良いところもありますが、どうしても子どもたちの人間関係が固定化してしまいます。安定といえればいい聞こえなのですが、ややもすると上下関係のようなものが子どもたちの中に根付いてしまいます。そこを、打破していこうと思うのですが、なかなか難しいところかと思えます。少人数だからどうしても周りの人に合わせていかないとやっていけない、けどもう少し人数がいれば自分に合う友達を見つけて、居場所を見つけることが出来る。そんなことを感じる場合があります。もちろんデメリットばかりではありません。少人数ならではの魅力ももちろんあるのは申し上げるまでもないです。
委員	本校は児童数が一番多く、全児童428名の学校ですが、児童数が少しずつ減っており、1学年2クラスになっています。35人クラスもある中で、先生方は大勢の子どもたちを指導していますので大変だと思います。

町からの生活支援員などのサポートをいただきながら、どうにか頑張っていたいただいておりますが、令和7年になると、児童数が300人になるのかと思うと寂しいと感じました。

委員

本当に町の手厚い支援を受けていることと、地域や保護者の方々からとても学校を大事にいただいております、私たちは感謝しながら日々働いております。学校の環境を活かした教育に取り組むことが教員の使命だと思いますので、どのような規模であっても粛々と乗り越えて精一杯やっていますし、アンケート結果を拝見して、皆さん概ね満足して下さっている印象を持ちました。

ただ、本校も建物が古くなっていますし、昔の学習指導要領の教育を想定して建てられているので、これからの子どもたちの多様な活動形態に応じた構造にはなっていないと思われまます。

生徒数については、3年生31人クラスがあり、私たち教員は他の学年と比べて多いという印象を持ちますが、子どもたちは大変喜んでいます。子どもたちは、活気や様々な意見が出て、多様な考えに触れることができる良さを感じているのではないかと思います。もちろん1年生2年生も20人弱ですけれども、その状況での学習ができているとは思っています。

委員長

ありがとうございました。町内12校の学校から4名の先生方に委員をお願いしております。

小中学校の現状には当然課題もありますので、これから議論になっていくかと思うのですが、現状から見えてきた「課題」について、もし何かお気づきの点がありましたら教えて下さいますか。

事務局

人口も児童生徒数も減少していく中で、また施設も老朽化していく中で、教育委員会として、今後の学校教育の環境整備について早急に方向性を示すことが、我々に与えられた大きな課題だと考えております。この委員会はそのための委員会ではないかと思います。

委員長

ありがとうございます。他の委員のみなさん、小中学校の現状について、何かご意見はございますか。

委員

厚生労働省が公的病院の統廃合をやるように、国の方針で各自治体の学校規模を決めてくれれば楽なのだが、自治体の判断となると非常に難しいですね。

また、1クラスの人数ですが、自治体で自由に決めたら国や県はだめだと言うのですか。

委員 教員数は県の基準により配置されるので、クラスを増やした場合、教員が不足することになります。

委員 先生方が非常にご苦勞されているということは、親しい先生から聞いております。この1年で何らかの方向性を示さなければならないのは、各委員辛いと思いますが、覚悟を決めなければなりません。

委員長 貴重なご意見ありがとうございました。何かご意見はございますか。

委員 私は糸生地区の出身なので、糸生中学校が無くなったとき、少し寂しい思いをしました。今後、学校数を減らした場合の試算があるようなら教えて下さい。

また、糸生中学校と朝日中学校が統合した際の、町の教育費の変化など試算等があるようでしたらお願いします。

委員長 大変ポイントをついた重要な質問ですが、事務局いかがですか。分かる範囲でお示しいただければと思いますが。

事務局 学校の規模等により異なりますが、例えば、朝日小学校では過去3年間の管理に係る経費が平均で1,964万2千円程度、教育振興に係る経費が430万程度かかっています。単純に、1校無くすとその分が減額となります。ただし、人件費は含まれておりません。

委員長 あと2、3ご意見を伺えればと思うのですが、いかがでしょうか。

委員 先ほど事務局から「この委員会は方向性を示すため」という説明がありました。また、前回教育長からは「この委員会は統廃合ありきではありません」というお話もありました。今の話の流れでは、統廃合ありきのように思えます。

全国の例を見ますと、福井大学附属小中学校は義務教育学校になりました。長野県では現代版分校方式で存続しているところもあります。統廃合ありきでないのなら、色々選択肢も含めた検討委員会として、資料を提示して欲しいと思います。

委員長 貴重なご意見ありがとうございました。今後の進め方など、事務局はどのようにお考えでしょうか。

事務局 統廃合ありきではなく、いろいろな方向を探りながら進めていきたいと思っております。

本日、各学校の現状について少しお話が聞けました。大規模校、小規模校それぞれの現状と、今抱えている課題についてお聞きしながら、次のステップへと進めていきたいと思っております。委員長からも「重要なことなので丁寧に進めていきたい」というお話がありました。スピード感をもって進めることも大切ですが、まずは皆さんにご理解いただいてから進めていきたいと思っております。

委員長 小中学校12校の現状と課題について、もう少し管理職の先生等から説明をいただいて、色々と理解を深めたうえで方向性を考えていく必要があると思っております。例えば校長、教頭先生等から話をいただく機会ということは考えていらっしゃるのですか。

事務局 次回以降、各小中学校の校長先生方に、それぞれの学校が抱える課題やメリットデメリットなどをご説明いただきたいと考えております。

委員長 具体的な状況について色々と教えていただく場が準備されているようですので、次回以降そのような方向で進めたいと思っております。

他にいかがでしょうか。

委員 丹生高校としてどのような形でこの会議に参加させていただければ良いのか伺いたしたいと思います。

例えば高校の色々な取り組みとして、小中学校との連携も含めた捉え方であるとか、過疎地域における様々な高校の存続のために、小中学校が存続したという例もいくつかあります。どの程度まで話を膨らませばいいのかわからないので教えていただきたい。

委員長 事務局いかがですか。

事務局 丹生高校は、地元にある唯一の県立高校であり、中高連携など最も親しい学校であります。また、県立高校も近年再編があり、そのような観点でも精通されていると思いお願いしました。

委員 教育費の資料を見ると、例年10数億円計上されています。これは一人当たりどのくらいの教育費がかかっていることになるのでしょうか。次回で結構ですのでお伺いできたらと思っております。

事務局 次回わかる範囲でお示しします。

委員 資料に「通学距離が小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校にあってはおおむね6キロメートル以内であること」とありますが、各地区で統廃合した場合、この基準にすべて当てはまるのでしょうか。

事務局 この基準は、概ね望ましい範囲という意味です。統廃合した際に、この基準を上回る学校も出てくるかと思えます。ただし、その場合はスクールバスなどで通学の利便を図ることで対応したいと思っております。

委員 施設整備は町の単費でやるのですか。

事務局 国庫負担の対象となります。

委員 学校の教職員の方は、実際現場でどのように感じ、どのように思っているのか、先生方の意見が何一つ無いのはどうかと思えます。現場で働いている先生のことにも大事に考えていただけたらと思いました。

委員長 これについて事務局いかがでしょうか。

事務局 次回以降になりますが、先生方のご意見や、学校における課題について、校長先生、教頭先生から直接お話を伺う予定です。

委員 意見を一つにまとめて代表の方からお聞かせいただけるのは大切な機会かと思えますが、子どもたちと直に触れ合っている先生方の声も聞かせてもらいたいなと思えます。働き方改革がはじまって、学校も色々と大変に感じます。部活動の悩みなど、細部に至るまでの意見をすくい上げていくと、より良い方針が立てていけるのではないかと思います。

委員長 ご参考にさせていただきたいと思えます。

委員 私が小規模校と中規模校を経験した中で感じることと、現在職員とよく話をしていることなど、一つ二つ話をさせていただきます。

前任校は小規模校の糸生小学校でした。一人ひとりに丁寧な指導ができ、教員もそのやりがいを感じながら日々過ごしていたと思えます。しかし、学年が上がるごとに、もっと大きな集団のなかで色々な経験をして成長さ

せなければいけない、という声は聴かれていました。

また、現在の宮崎中学校は宮崎小学校からそのまま中学校にあがります。生徒数は決して多くありませんので、一人ひとりに対する指導は丁寧に行われています。しかし、中学校になると大きな成長が望まれますので、集団が小さいがために経験できる場が少ないと感じます。さらに、9年間すべて同じ仲間です生活しますので、人間的成長のためにはもっと多くの人との関わりの中で、同級生や上下関係の関わりが必要であるという声は職員から上がっています。

委員長

小中学校の違いによる課題、学校の児童生徒数の違いからくる課題など、詳しくご説明をいただきました。勤務校での実態に基づいてのお話でしたが、次回以降、各学校の現状、課題について説明をいただく中で、委員会としてしっかりとそれぞれの学校の現状について理解をしていくことが必要だと感じました。ありがとうございました。他にありますか。

委員

各小中学校の実情について、声を聴く機会を設けていただけるのは大変ありがたいですが、12校すべての先生が来て説明をするとなると、現実的に難しい面もあると思います。説明方法などはっきりしていることがあれば教えてください。

委員長

事務局いかがですか。

事務局

小学校8校と中学校4校は分けて行いたいと考えております。それぞれの学校の抱えている問題やメリットデメリットを先生方から直接説明していただきたいと考えています。

委員長

よろしいですか。

委員

この委員会が始まった去年の2月に、越前町として学校のこれからの在り方をいよいよ検討していく段階に入ったと職員に説明しました。職員には色々な思いがあると思いますが、本来のこの会の主旨を理解しないまま軽々に言葉を発していると、その言葉ばかりが保護者の間で独り歩きしてしまうので、気を付けてくださいと伝えました。

現に、匿名の方で学校に問い合わせがありました。

委員長

委員会について、事務局で簡単に周知していらっしゃるのですか。

事務局

今後、会議結果も含めホームページに上げていきたいと考えております。



委員長 一つエビデンスにもなりますので、できる範囲でご検討お願いしたいと  
思います。(1)につきましてはこの辺りにしたいと思いますが、よろしい  
でしょうか。

(2) その他

委員長 次の(2)その他について、事務局何かございますか。

事務局 次回の内容ですが、このような問題に非常に見識の深い、福井大学の松  
木先生に講演および意見交換などをお願いしたいと考えております。日程  
については未定でございますが、よろしく申し上げます。

委員長 今年副学長になられ、大変忙しい方なので、日程等を含めご相談させて  
いただきたいと思います。

委員の皆様もその他について、よろしいでしょうか。

今日の協議事項についてはすべて終了とさせていただきます。

色々と熱心にご協力いただきありがとうございました。次回から、議論  
の方向性を色々な現状のデータから理解したうえで方向性を決めて行くの  
かと思います。引き続きご協力を賜りますようお願いを申し上げます。  
ありがとうございました。

5. 閉会

副委員長あいさつ

〔出席委員〕 15名

〔欠席委員〕 4名

〔事務局〕 教育長・教育委員会事務局長・学校教育課長・町指導主事  
学校教育課職員3名